

〇〇〇教委視察説明資料

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

北海道 伊達市

自治体名：北海道伊達市

担当課名：生涯学習課

電話番号：0142-82-3299

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	444.21 km ²
人口	31200 人
公立中学校数	4 校
公立中学校生徒数	約700 人
部活動数	16 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	令和4年 設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	令和5年 策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

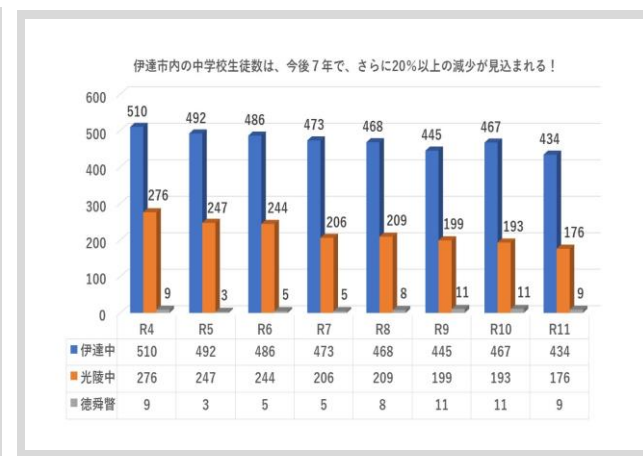
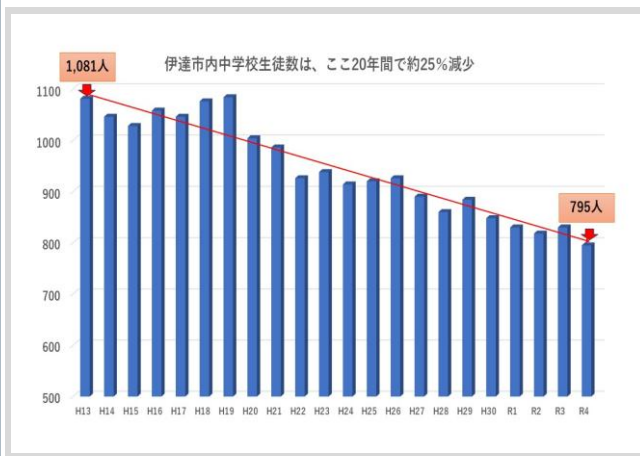
北海道の道南地区、経済圏では道央地区に位置する胆振管内にある伊達市は、室蘭市に隣接する人口3万強の市で、南は太平洋噴火湾に面し、北は有珠山を背にしており、北海道においては比較的雪が少なく、北海道観光名所である洞爺湖の近くに位置している。

道内の他市町村同様、人口減少、少子高齢化が進んでおり、市内中学生生徒数は、平成13年度の1,081名から令和4年度の795名へと減少、ここ20年間で25%の減少となっている。

さらに、今後の生徒数の推移を予想すると、7年後の令和11年度には、生徒数が619名程度と予想され、さらに20%以上の生徒数減少が見込まれている状況にある。

市内中学校は、生徒数500名弱の伊達中学校と、250名弱の光陵中学校、4名の極小規模校大滝徳舜賢学校（小中学校）の3校が存在する。

近隣他市町中学校ほどではないものの、伊達中学校、光陵中学校では、団体種目の部活動を維持するのが難しくなっており、野球、女子バレーボールについては、なんとか両校に存在しているが、伊達中にあったソフトボール部、サッカー部は、令和5年度に廃部。男女バスケットボール部においては、令和5年度より学校枠を外し、光陵中学校からの入部を可能とする拠点校方式を取り入れた。令和7年度からは、卓球部、バドミントン部が両校合同練習、または合同チームが見込まれている。



自治体の課題、現状

・人口減少等の地域全体の課題は……。

市内中学生数が、20年間で25%減少。今後7年間でさらに20%以上の生徒数の減少が予想され、教職員の定数減も進行中。

・地域移行の取組の現状は……。

休日の地域移行については、令和5年度にすべての部活で実施完了。剣道、柔道に続く、平日の地域移行を拡大に向け調整中。

・地域移行を進める上での課題は……。

生徒たちの現状の生活リズムを崩さないかたちでの平日の地域移行の実現と、夏冬休み期間中における平日の地域移行のあり方を検討中。

地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	4校	全生徒数	約700人
域内の部活動数	16部活	実施した地域クラブ数	16クラブ
全体の指導者数	62人	全体の運営スタッフ数	2人
主な運営団体	NPO法人伊達市スポーツ協会 (総合型地域スポーツクラブ伊達スポーツクラブ藍)		
主な種目	軟式野球、バレーボール、陸上、バドミントン、ソフトテニス、卓球、バスケットボール、柔道、剣道等 9種目		
平均的な活動回数	平日週4日 20回/月 休日週1日	年間平均参加生徒実数	3年：14人/クラブ 2年：13人/クラブ 1年：15人/クラブ
参加会費	0円/年（徴収なし）	主な活動場所	各中学校等

地域移行関連の取組、成果

・将来を見据えたスクールバスを活用した合同練習の取組（休日・平日）

陸上、バレー、卓球、今後はバドミントンも、1か所で複数体制による指導により、リレーで全国大会出場を果たすなど、合同練習を取り入れた種目の競技力向上が図られている。

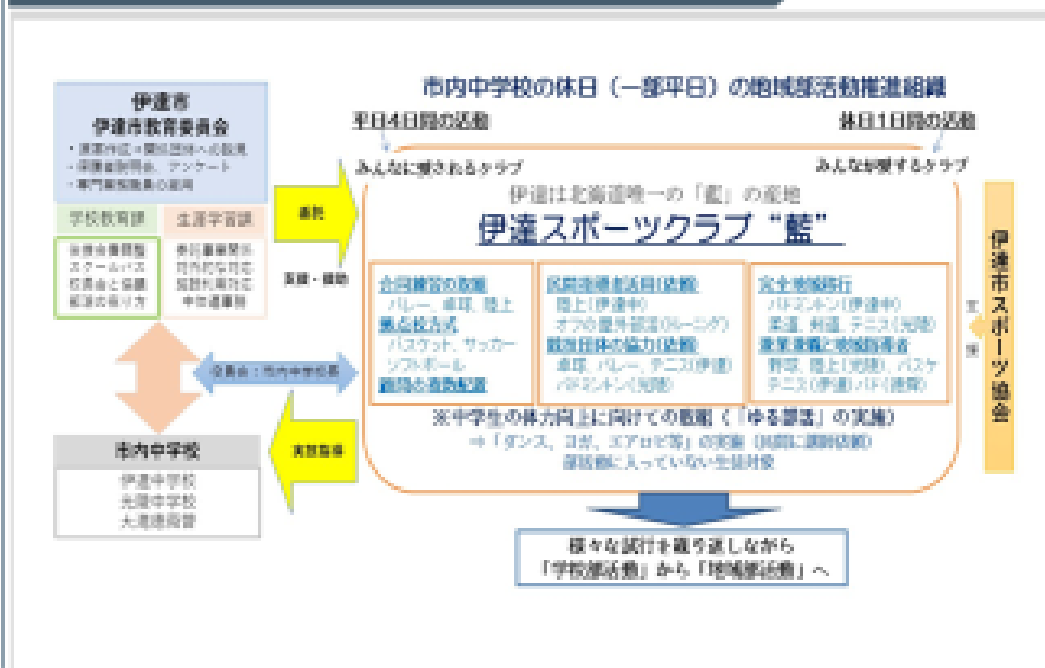
・市内全生徒を対象とした「ゆる部活」の取組

市内生徒の体力向上施策として、民間等の専門指導者の実技指導によるYOGA、エアロダンス、ニュースポーツ等を各校で学期に1回実施しており、生徒に好評である。

・ICTシステムやHPを活用した作業の効率化、広報活動の取組

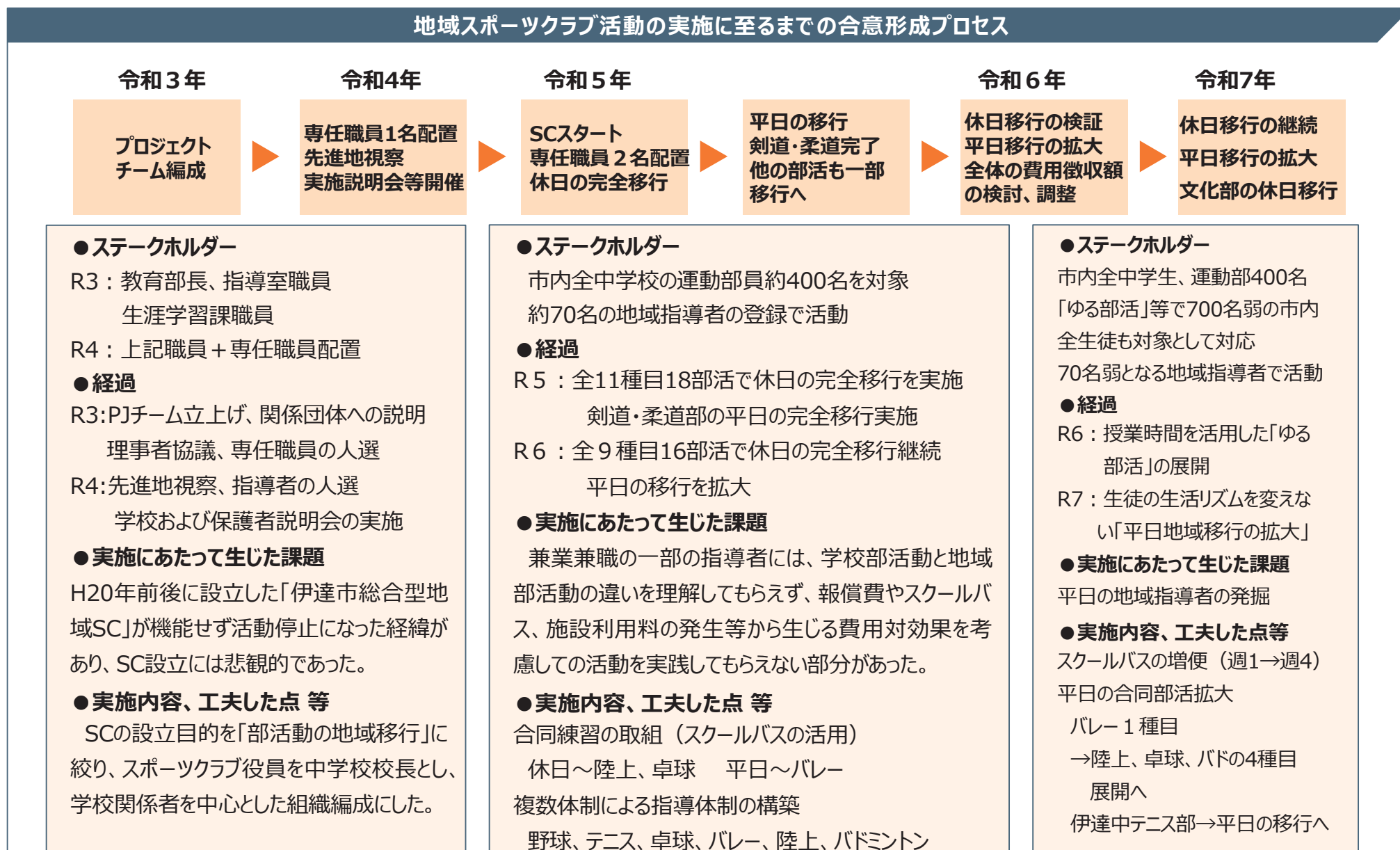
オンライン入力による報償費の集計、HPを活用した各種手続きと広報活動を行った。

運営体制図



2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

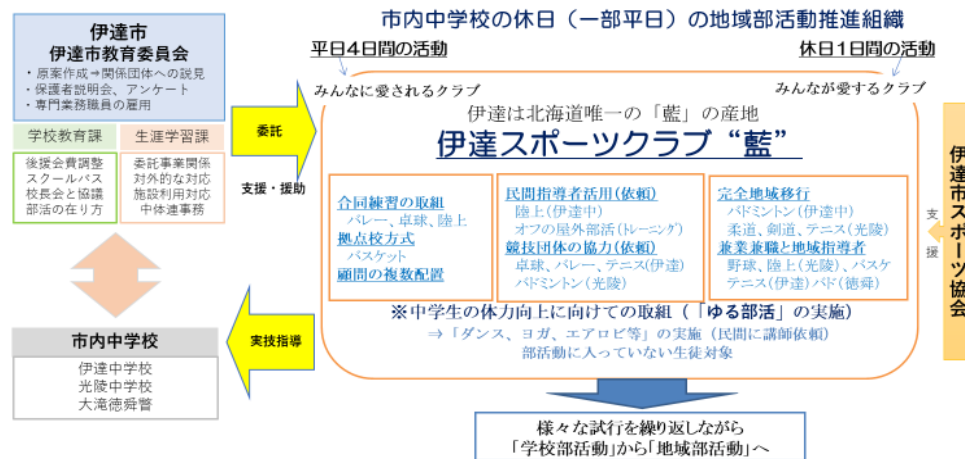
北海道 伊達市・伊達市教育委員会部活動改革スケジュール

方向	部活動を教員から切り離す		→	休日の部活動は兼業兼職も含む地域指導者		→	平日へ拡大	
	新たな運営形態による部活動		→	一部平日も地域指導者による指導へ		→	完全地域移行	
	受け皿となるスポーツクラブの設立		→	休日はスポーツクラブが運営主体の部活動へ		→	平日もクラブ	
	2021年度(R3)	2022年度(R4)		2023年度(R5)	2024年度(R6)	2025年度(R7)		2026年度(R8)
教育委員会	プロジェクト チームの設置 骨格案作り 関係団体との連絡調整 理事者協議 予算案作成	専任職員配置 (運営総括) 保護者説明会開催 予算要望、議会对応 委託事業応募 先進地視察	伊達 スポー ツク ラブ 藍 設 立	専任職員配置 (事務担当) 伊達市の部活動の在り方 顧問複数体制、平日4日、休日1日の活動 主顧問は、平日4日のうち2~3日指導。 委託事業の支援、補助、指導	事務局 (2名体制)	事務局 (2名体制)	S C 藍 進 化 ・ 最 大 限 の 平 日 の 地 域 移 行	事務局 (2名体制) 学校部活動
事務局		アンケート調査実施 顧問との面談 活動計画、規約等 関係団体との連絡調整 学校中心の準備委員会		陸上、野球、卓球、テニス、バレー、サッカー バドミントン、バスケ、剣道、柔道で実施 R7：文化部「休日の部活動」を地域部活動へ 総会、指導者研修会、役員会、運営委員会 理事会、HP、報償費計算および支払い				種目の精選 平日最大限拡大 完全移行も 組織体制見直し 文化部地域移行継続
会費 保険				徴収しない → 体育文化後援会費等見直し 保護者総負担額を検討		徴収しない 検討継続 全体徴収額検証		徴収検討
事業				委託事業				

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎市（教育委員会、企画財政部）

委託事業契約関係、予算関係、渉外的な対応、議会对応、施設利用対応
 中体連関係補助対応、活動に対する支援および指導、会費徴収等の検討
 保護者負担額の調整、スクールバス手配調整、部活動の在り方検討
 校長会との協議、活動の支援および指導
 予算面の支援、広報およびFacebookでの活動紹介

年間の事業スケジュール

4月	1週：総会、指導者研修会 1週土曜日より活動開始 1年生体験入部期間
5月～6月	各春季大会、中体連予選支援 中体連大会支援、役員会開催
7月～8月	中体連胆振、全道、全国大会支援、 「ゆる部活」の実施、報償費清算 学校閉庁日対応（休部期間）
9月～10月	役員会開催、新人戦大会支援 中間決算報告作業 3年生応援プロジェクト開始
11月	予算検討、予算案作成
12月	役員会、運営委員会開催 「ゆる部活」実施、学校閉庁日対応 2学期報償費清算
1月	冬季大会支援、次年度運営計画
2月	決算業務、役員会実施
3月	理事会の開催 「ゆる部活」実施、学校閉庁日 3学期報償費清算

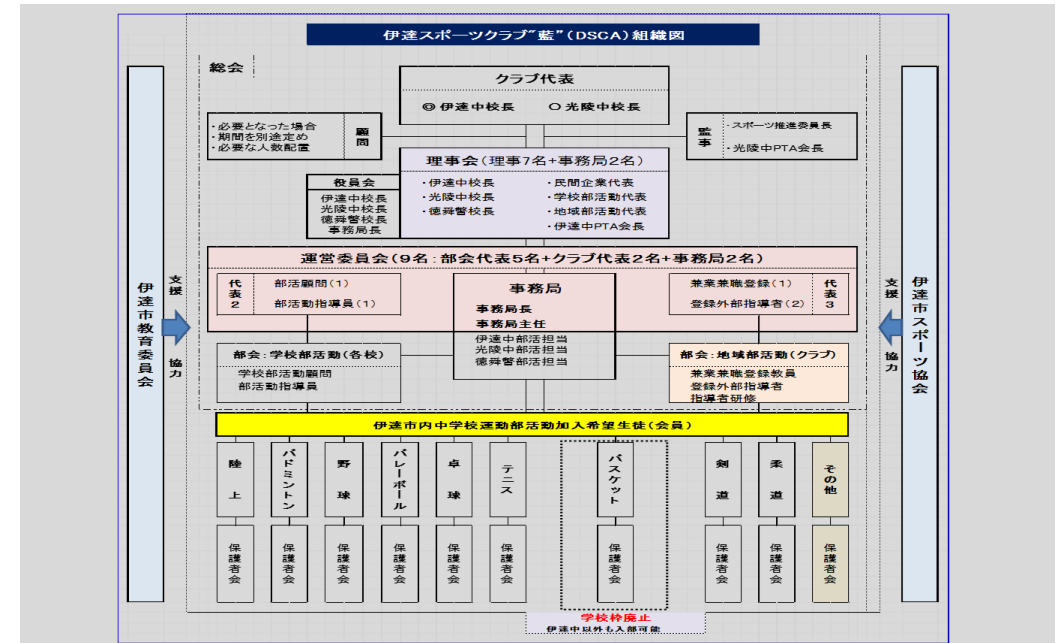
2.実証内容と成果

主な取組例

●スポーツクラブ活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上、バレーボール、卓球、軟式野球、ソフトテニス、バスケットボール、バドミントン、剣道、柔道
運営団体名	NPO法人伊達市スポーツ協会 (伊達スポーツクラブ藍)
期間と日数	9競技全部 4月第1週土曜～3月終業式迄 活動：平日週4日、休日週1日
指導者の主な属性	兼業兼職教員、スポーツクラブ登録指導者
活動場所	各校体育館、グラウンド、市体育館等
主な移動手段	徒歩、自転車、合同練習はスクールバス
1人あたりの参加会費等（年額）	令和6年度までは、会費徴収0円 令和7年度についても同様
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



◆指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 役員会 4名（各中学校校長＝会長、副会長、理事、事務局長）
役割：SCの方向性や指導体制等を協議、決定（課長も参加）
- 統括責任者 1名（スポーツ協会事務局長）
役割：学校部活動顧問（兼業兼職含む）、地域指導者との、連絡、調整
クラブ全体の指導体制の在り方について検討、調整
- 部活動担当者 3名（各中学校1名）
役割：各学校の部活動（地域部活動を含む）の連絡調整を図る

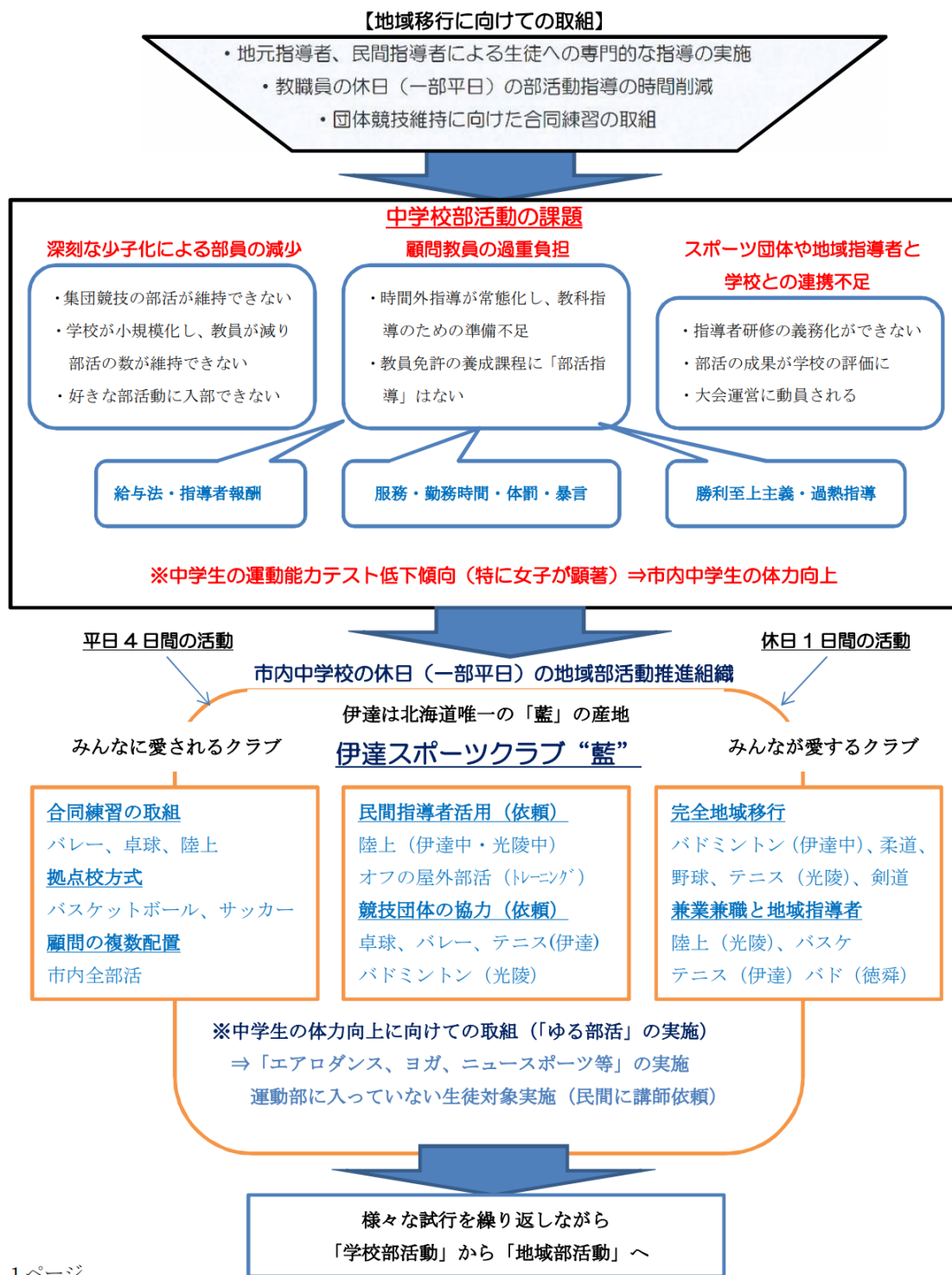
基本理念

休日の部活動（一部平日）を学校部活動から地域指導者による地域部活動へ移行！

- ・地域移行に向けた3つの柱
- ・中学校部活動の課題と
市内中学生の課題（体力低下）

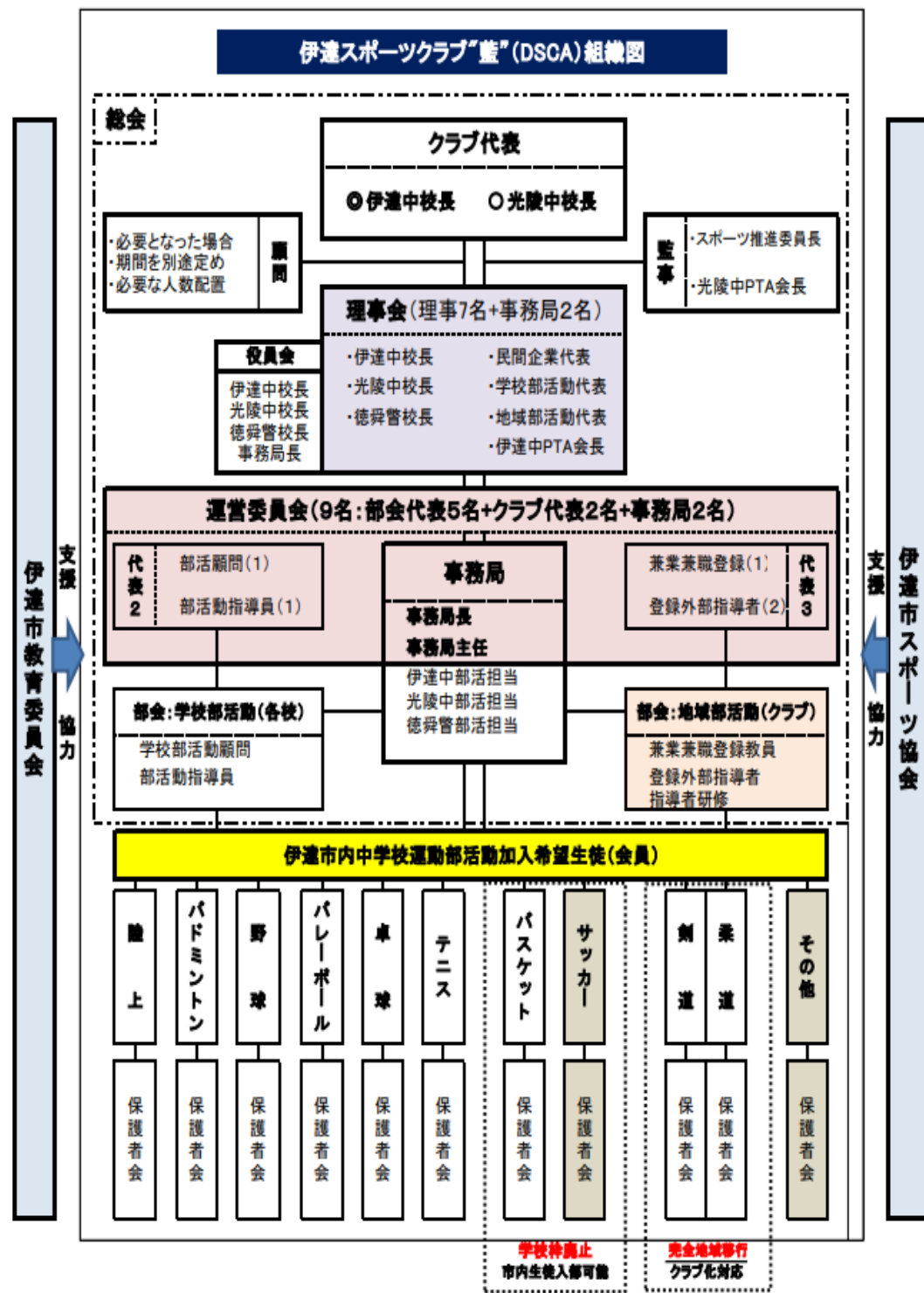
対応

「伊達スポーツクラブ藍」設立



組織について

- ・自ら活動、行動し、地域に依頼
- ・教頭を組織に位置付けない
- ・校長のリーダーシップ発揮
- ・長期休業中は基本学校で



すみ分け表

学校部活動と 地域部活動のすみ分け

・なんとなく？⇒明記

・保護者、生徒、地域指導者の
かわい、大会引率の在り方

・クレーム対応や問題行動防止

「学校部活動」と「地域部活動」の『すみ分け表』		
	学校部活動	地域部活動
活動	- 顧問は教員による複数体制。 - 週平日4日活動(1日休み)。 - 主顧問は3日以内、副顧問は1日以上指導。 - 基本的には学校施設利用。 - 原則、長期休業中の部活動	- 兼業兼職職員、地域指導者による複数体制。 - 基本は、土日のどちらか1日と祝日。(約45日) - 休日の大会については別途10日程度予定 - 翌日が大会の場合や中体連大会前の場合は、土日の両日活動可能。 - 基本的に学校施設活用の練習は、特別な事情がない限り、学校側は許可する。
指導・指導者	- 基本、指導者は教員 - 地域指導者も学校の要望があれば指導は可能。 - 生徒、教員の保険対応については学校対応。 - 平日の学校部活動で、SC登録の地域指導者が指導する場合、報償費はSCより支出。 - 部活動顧問は、地域部活動開始時2～3回、学期開始時と終了時には、活動に顔を出し、地域指導者との交流を図る。 - 報償費やトラブルがあった際の根拠となることから、「月報」を毎回ファルでやり取りし、連携、協力を深める。	- 兼業兼職、地域指導者で指導 - 休日のみではなく平日も、学校施設以外の地域指導者による活動は地域部活の保険対応。 - 報償費のみ、SCに指導者登録している指導者に、時給1,600円とし、平日は最大2h、休日3h分SCより支払う。 - 大会については、3.5h分を10日程度予算立て 「学校部活動指導者」と「活動引き継ぎ書」を毎回ファイルかメールでやり取りし、連携を深める。 - 地域部活動の指導者登録者は、必ずSCが開催する指導者講習会に参加することとする。
大会引率	- SCに指導者登録していない教員の引率については、学校部活動として、学校側で必要経費を負担する。 - 団体競技、あるいは個人競技で団体戦がある競技など、学校代表として参加しなければならない大会において、兼業兼職の指導者が不在の場合は、学校部活動指導者または学校関係者より引率者を出さなければならない。	- SC登録指導者のみ報償費支出(3.5h:5,600円)ただし、10日程度までとし、大幅に10日を超える場合は、3h:4,800円とする。 - 個人競技の個人戦の場合は、大会によっては地域指導者の引率は可能であるが、公共交通機関を活用する以外は、現地会場集合とし、会場までは保護者が送迎する。(解散も同様)
用具	- 学校予算または体育文化後援会費、部費等で購入したものを活用する。 - 生徒が所属する地域部活動には用具を貸与する。 - 合同練習等の用具持ち出しを許可する。 - 施設使用料は、学校または部費負担	- 学校部活動の用具を活用できる。学校施設以外の場所で練習を行う場合も、学校の許可を得て用具を借用することが出来る。 - 合同練習等の用具は、事務局と協議し購入することが出来る。 - 施設使用料は、SC事務局または部費、個人負担
保護者	- 保護者会を構成し、練習および大会の支援に当たる - 欠席連絡は学校、または顧問	- 学校部活動の保護者会を引き継ぎ、支援する。 - けが等の「スポーツ安全保険」申請手続きを行う。 - 欠席連絡は、地域指導者に直接連絡する。
部活バス	- バス通学生の状況を把握し、登下校バス利用範囲内での活動時間とする。 - バスの手配については、地域部活動も含めて学校の担当者(部活担当者)が、各校で行う。 - バスを有効活用できる活動割り当てに心がける。	- 部活バス利用可能な時間帯での活動を基本とするが、難しい場合は、保護者の送迎とする。 - 伊達中と光陵中学校のバス発着時間が異なることから、全体練習開始と終了の時間は設定するが、バス通生については、個別に対応する。
費用	- 各校体育文化後援会費 - 各部活動ごと設定の部費 - 必要な用具費用 - 学校部活動、学校代表として参加する大会参加費については、学校負担。または部費負担	- 令和6年度においても、費用負担、会費設定なし。 - スポーツ安全保険はSC負担(保険の一本化) - 学校部活より継続する部費。 - 合同練習に必要な費用については、SC負担。
SC	- 生徒一覧表を作成し、地域指導者に配布。 - 指導に配慮が必要な生徒について密に連携を図る。 - 大会日程の早めの通知 - 学校部活動顧問からの地域指導者に対する積極的なアプローチ。 - 地域指導者の専門性を生かした指導の継続 - より良い集団づくり、体力の向上を図る。	- 学校部活動からの情報を生かした、個に適した指導 - 学校で決められた部活動ルール(テスト前停止期間や感染症対応)の継続。(会議等については検討) - 地域指導者からの学校部活動顧問への積極的なアプローチ。 - 専門性を発揮した指導の実践。 - 勝利第一主義に固執せず、生涯スポーツの観点から、スポーツの楽しさを体感させる。

⇒部活動のサポート・支援役

＜現状＞ほとんどの種目で胆振大会進出

・廃部：伊達中サッカー、ソフトボール

・合同：剣道、柔道のみ

＜今後＞

・3校9種目、16部活 各校活動⇒可能な限り継続

・将来的な合同部活に備えて⇒合同練習、競技力向上
地域の支援体制の構築

・部活動だけではなく⇒体力向上・文化活動支援

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

●休日の部活動巡回

休日の部活動については、活動の巡回を実施して、直接指導者と情報交換の場としている。

●週1回のHPの定期更新

毎週、定期的にHPを更新し、活動の様子や連絡事項等を情報発信。

●連絡ファイル回収

指導者間で練習内容や生徒の様子についての情報交換

●SNS等を活用した連絡

メールやライン、アプリ等で、細目に連絡、情報交換

取組の成果

●休日の部活動巡回（月平均8回以上、年100回弱実施）
年間通じて巡回を実施したことにより、指導者と情報交換を図ることができ、指導者の意見や要望がクラブ運営には反映することができた。

●HPの更新（週1回、年間50回更新）
HPによる連絡事項の周知、必要書類のダウンロードによる提出等が定着し、事務局の事務量が軽減。

●連絡ファイル（記載欄をチェック方式多様に改善）
ファイルの記載欄を改良したことにより、業務が軽減され、連絡事項が明確化。

●SNSの活用（関係者からの写真提供は100%SNS）
提供してもらう写真は、すべてSNS経由。部活によってはアプリを活用し、試合の様子をLive配信

【「休日の部活動巡回」情報指導者と交換】



【「常に複数体制指導の伊達中野球部」】



コーディネーターの具体的な動きの実績

休日の部活動については、活動場所や大会会場を巡回し、活動の様子を写真に撮り、HPに掲載するとともに、地域指導者と情報交換をし、クラブ側からの情報提供や、指導者側からの要望を聞き取ったりしている。

また、巡回時に、生徒や保護者とも交流を図り、情報交換を行なってクラブ運営に反映できるようにしている。

今後の課題と対応方針

SNSアプリを活用した遠方での試合のLive配信については、個人競技で推奨するように働きかけ、応援に行けない保護者への観戦機会の場の設定や、記録として保管し、ミーティング等で活用しながら、練習にいかしていけるような環境設定を構築したい。また、更なる業務軽減化を図るため、HPの内容更新も図っていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

- 実働（指導）できる指導者の確保
実際に直接指導できる指導者に依頼
- 若手指導者の確保
長期のクラブ運営、指導を考慮し、比較的年齢層が若い指導者を多く登録
- 女性指導者の確保
半数が女子生徒であることから女性指導者を積極的に登録

登録指導者の人数

66名（女性13名）

登録指導者の年齢構成

年齢層	人数
10代	0名
20代	9名
30代	15名
40代	17名
50代	12名
60代以上	13名

登録者属性

- 直接依頼
1年間の準備期間中に、活動場所、大会等を訪問し、協力依頼
- 実働による登録依頼
実際に1年間活動してもらい、本人の判断による登録依頼

種目

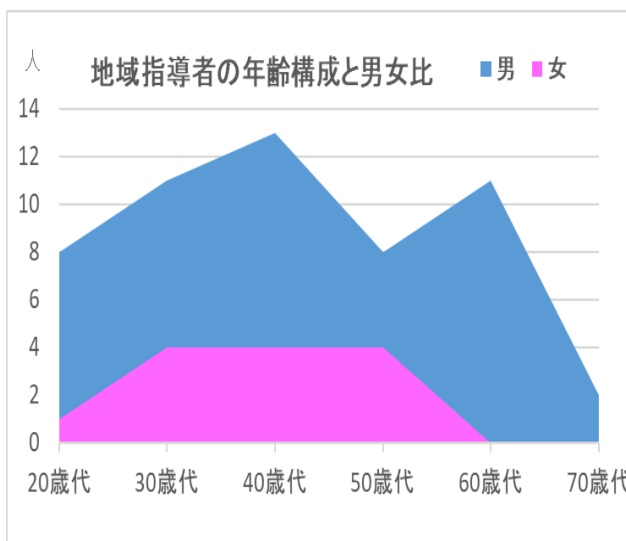
- 学校部活動の9種目
陸上、軟式野球、ソフトテニス、バレーボール、卓球、バドミントン、バスケットボール、剣道、柔道の学校部活動にある9競技に絞った地域指導者登録としている

資格有無

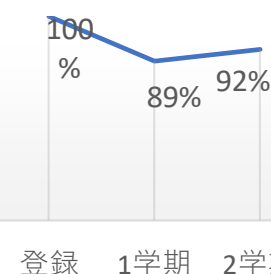
- 資格有無を問わず
競技歴や指導歴、意欲を優先させ、資格については問わずに依頼。
将来的な観点から、資格取得希望者には、費用負担面の対応を今後検討

取組の成果

- 競技力向上が成果に（全国大会出場・全道大会上位出場）
R5、R6年度、全国大会各1出場をはじめ、2年間で全道大会上位入賞や全道大会に出場する種目が増えてきている。
- 複数体制による指導と女性指導者の配置
競技経験、指導経験のある指導者が、複数体制で効率的に指導を行っていること、女子生徒のいる部活には、ほぼ女性指導者配置されていることから、細かい部分でいくつかのクレームはあるものの、準備期間中の保護者説明会で要望された「素人による指導」等の指導体制については、学校および事務局へのクレームは0件である。



地域指導者の稼働率



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

●競技団体が主体となった活動

・卓球連盟との連携

毎週土曜日午後、総合体育館では、伊達中、光陵中（スクールバスでの送迎）の卓球部合同練習を複数体制の指導で連盟が主体となって支援

・テニス連盟との連携

休日の伊達中テニス部の練習を、テニス連盟が複数体制で主体となって練習を支援

取組の成果

●競技団体が指導を全面バックアップ（卓球・テニス）

・卓球の合同練習、休日の伊達中テニス部練習は、連盟が練習メニューを作成し、常時4名を超える複数体制での指導。

<合同卓球>

夏中体連：男女ともシングルス個人戦全道大会出場

秋季新人戦：光陵男子、伊達中女子団体戦全道大会

<伊達中テニス部>

夏・秋季：管内大会上位入賞

※両部活とも大会、選手数が多いが、複数体制で指導を展開しているので、上位大会出場者と練習組で分けて練習が実施でき、レベル向上につながっている。



【競技団体が主導で活動するテニス部・合同卓球】

バス等の運行実績

- ・日数 週2回、毎週火・土曜日
- ・利用者数 12人程度
- ・運行経路
光陵中⇄総合体育館間をスクールバスで送迎（平日火曜日は、バレーの合同練習を同区間で送迎）

バス等の運航経費・収入

- ・人件費
学校スクールバスのため、教育委員会負担
クラブ負担はなし
- ・利用料
学校スクールバスのため、教育委員会負担
利用者負担なし

今後の課題と対応方針

・スクールバス週1便を増便

平日の移行および展開に向け、R7年度は卓球連盟の協力を得て、両校において各2日、週4日地域指導者による平日の部活動をスクールバスを週4日に増便して実施予定。
 また、他の部活動も実施検討中。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実① 平日の取組 I

取組の成果

●平日の活動展開の工夫①「ゆる部活」

休日の部活動の地域移行・展開については、体制を構築することはできたが、平日の移行・展開については、課題も多く難しい部分が多い。クラブの取組方として、発想と方向性を転換し、クラブとして市内中学生全体に働きかける活動を実施した。

・運動部に所属していない生徒対象⇒市内全生徒対象へ

R5年度は、運動部に所属していない生徒を対象に放課後実施していたが、R6年度は校長会等の協力を取り付け、授業中での活動を実践。

伊達中3年生では、4クラス140名弱がモルックを体験、光陵中1・2年生100名弱がエアロダンスを体験するなど、4倍以上の生徒を対象とした。実施後のアンケートでは、8割を超える生徒から「楽しかった」と回答があり、7割を超える生徒から「次回も参加したい」と回答があった。



【「ゆる部活」の様子（YOGA・エアロダンス・フロアカーリング）】

今後の課題と対応方針

●平日の展開の在り方として定着を図る

平日の移行・展開に課題がある中、「ゆる部活」という展開で、授業も時間も一部活用し、市内全生徒対象に、運動に親しむ機会を提供できた。

一過性で終わるのではなく、今後も学期毎に1回程度のペースではあるが定着させていく必要がある。

●身体的効果も求めながら実施する

生徒のアンケート結果から、圧倒的にニュースポーツ系の評価、希望も高い。レクリエーション的な部分を求めるのも必要だが、授業を活用することもあり、YOGAやエアロダンス等も定期的に取り入れ、身体的効果を数値的に高めていく取組も必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実① 平日の取組Ⅰ

取組事項

●市内全生徒を対象とした

「ゆる部活」の実施

- ・R5年度、運動部以外の生徒を対象とし、放課後にYOGAやエアロダンス、ニュースポーツを年1回程度実施。
- ・R6年度、対象者を市内全生徒に拡大し、授業時間も活用しての取組に変更し、学期毎に1回程度実施。
- ・部活動以外のスポーツに親しむ機会、専門の民間講師による指導等により、スポーツを楽しむ機会、そして市内中学生の体力向上の機会として実施。
- ・スポーツクラブ設立の目的を、地域移行だけではなく、スポーツの普及活動も付け加えた。

活動の詳細

参加人数	326人	指導者数	20人
属性	伊達中3年生、光陵中1.2年生、徳舜警5～9年生、伊達中特別支援、光陵中特別支援		
具体的な内容	・1学期：伊達中3年生140名 モルック、光陵中支援学級10名 フロアカーリング 徳舜警12名 YOGA ・2学期：伊達中特別支援10名 光陵中1.2年生100名 エアロダンス 徳舜警12名 モルック ・3学期：伊達中美術部 モルック 伊達中文化部 YOGA、徳舜警 モルック 2月実施		
子供の声	● モルックは運動が苦手でも楽しむことができた。 ● YOGAは、からだも心もリラックスできてよい運動だと思った。 ● フロアカーリングは、まっすぐ投げるのが難しかったけど、またやりたいと思った。 ● エアロダンスは、最初は少し難しかったけど、楽しく踊ることができた。		
関係者の声	● モルックは学年行事、クラス行事等でも、みんなで楽しめるので良かった。 ● 支援学級の生徒も、民間クラブや競技団体の指導を受けられる機会があり、ありがたい。 ● 普段経験できないスポーツを気軽に楽しく体験できるのが良い。		
運営経費	● YOGA、エアロダンス ⇒民間クラブ指導者派遣依頼 ● ニュースポーツ ⇒競技団体講師派遣依頼 事前事後準備各1h 実技指導1h 時給1,600円×2h×人数		

【「ゆる部活」の様子（モルック）】



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実② 平日の取組Ⅱ

取組事項

●中学校3年生を対象とした 「3年生応援プロジェクト」の 試行実施

- ・高校等も含め、今後選手として活躍が期待される部活を引退した中学校3年生に対して、活動を継続させるとともに、トレーナーの専門的な指導を受ける機会を試験的に提供する。
- ・生徒本人、保護者の要望、指導者からの要望もあり、試験的に実施。
- ・HPで全体に周知して公募。ただし、中学校3年生にとっては受験勉強に集中すべき時期であることから、応募に当たっては、保護者の了解と学校推薦を必須とした。

活動の詳細

参加人数	10人	指導者数	トレーナー2人（合同練習は除く）
属性	伊達中：バレー部2名、陸上部3名、卓球部2名、光陵中：陸上部2名、卓球部1名		
具体的な内容	・バレー部：合同練習への参加、週1回トレーナーとのトレーニング ・陸上部：週1回トレーナーとのトレーニング ・卓球部：合同練習への参加		
子供の声	● トレーナーの指導を受けてと専門的なトレーニングが受けれることはうれしい。 ● もう少し回数を増やしてほしい。 ● ケガの防止につながる。今まで体幹とかあまり意識していなかった。 ● 二学期早々には取り組めるようになると良い。		
関係者の声	● 高校入学まで継続して練習できる環境が出来たことはありがたい（保護者） ● スポーツ推薦で進学予定の生徒にとっては、大変ありがたい取組（部活動顧問） ● 回数をもう少し増やしてほしい（保護者・部活動顧問） ● 良い取組なので、もっと大々的に周知してもよいのでは？（保護者）		
運営経費	・合同練習等への参加⇒無料 ・トレーニング室利用料1回300円 - クラブ負担、生徒免除 8名 ・トレーナー 1日15分指導、週3回		



【3年生応援プロジェクトの様子1】

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実② 平日の取組Ⅱ

取組の成果

●平日の活動展開の工夫①（試行）3年生応援プロジェクト

1年半、部活動の地域移行・展開に取り組んできたが、将来が有望される選手（生徒）への対応については、各学校または家庭、本人任せとなっており、特段対応はしていなかった。

・平日の地域移行・展開の活動の方策の1つとして

休日の活動の巡回や大会の応援見学で、1年半保護者と接する機会があったことで、保護者から相談を持ち掛けられ、全面的な平日の地域移行・展開には課題が多く時間を要するが、平日の1つの取組としては可能であると判断した。

競技としてのトレーニングも実施するが、今後競技を継続するにあたって、身につけなければならない筋肉、トレーニング方法を学んでもらうために、民間トレーナーに依頼しトレーニングを実施。選手（生徒）、保護者から好評で、週1回のトレーニングではあるが欠席者はほとんどない。

今後の課題と対応方針

●本格実施に向けて

当初、保護者の要望から始まったことから、実験的に事業を実施していた。他市町村からの視察時に、平日の展開例を紹介したところ反響が大きく、試行としながらも本格的な事業として次年度展開できるよう体制を整えることとなった。



【3年生応援プロジェクトの様子2】

●定員枠の拡大と受入れの範囲

本格実施に向け定員枠10名で、HPでの公募を試験的に実施したところ、すぐに定員枠が埋まってしまった。次年度はトレーナーを複数体制とし定員拡大へ。応募に当たっては、今年度同様、受験に向けての学校体制もあることから、学校の同意をもらうこととする。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

●学校における徴収金額の見直し

中学校で体育文化後援会費、部活動費等の徴収金額の見直しを検討中。

●令和5・6年度の会費徴収なし

中学校で部活動費等徴収しているため、保護者負担を考慮し、令和5・6年度については会費徴収なしとした。

地域クラブに係る経費

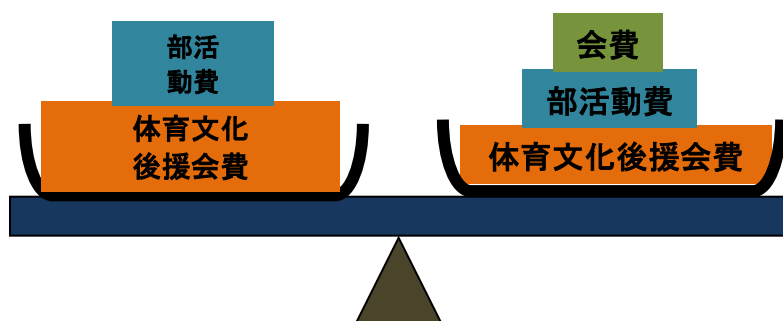
■事務経費等

・旧HP更新作業料	50,930円
・新HP更新作業料	58,300円
・PCシステム保守業業務	120,000円
・事務用品	100,000円
・人件費・賃金	7,417,441円

■生徒にかかる経費

・指導者謝金	11,080,000円
・旅費、交通費	820,000円
・借損料	100,000円
・役務費	171,078円
・保険料	493,300円
・運動用消耗品	500,000円

持続的な運営に必要な受益者負担額について



●会費徴収額について

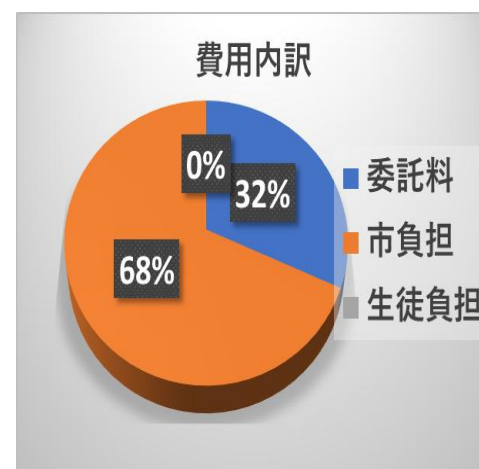
各中学校が部活動費等の徴収金額を見直し、負担額を検討中！

費用の財政支援について

●財政支援の拡大

R5、R6年度の費用については市費のみである。

市費のうち、1/3が道費（委託料）であるが、残りは市費が負担しているため、今後、指導者謝金や保険料など生徒にかかる最低限の費用について、国などからの財政支援の拡大が課題である。



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

●徴収額の調整は指導者、保護者に好感

役員会と教育委員会で、様々な部活動に関する徴収金の調査について、保護者や指導者から本気度を感じてもらうことができ、特に全生徒一律徴収であった「体育文化後援会費」を配意し、部活動に加入している生徒から徴収する「部活動費」への変更は保護者から理解を得られた。

●負担額の一元化を検証

徴収額だけではなく、様々な部分で負担している費用を洗い出し、トータル費用を算出して、将来的に負担額を一元化し予算付けしようとする取り組みは、学校の負担軽減と予算縮小につながると思われる。

●会費を徴収しないことで業務が軽減

過去2年間で「会費徴収なし」で運営したことにより、徴収作業と集約、集計作業がなく事務作業の軽減となった。

今後の課題と対応方針

●会費徴収額の設定

2年間で「会費徴収なし」で取り組んできたが、将来を見据え、ある程度の受益者負担は必要になると想定される。しかし、今年度の総予算額と会員数から試算した負担額では高額となることから、保護者から理解を得ることが難しいと考えられるため、理解を取り付けることが課題である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

●地域指導者のみでも学校施設活用を可能に

昨年度までは、学校職員が付いていないと（地域指導者のみ）では学校施設を利用できなかった。

今年度、1校（光陵中学校）のみ学校施設開放事業用の体育館玄関の鍵を預かり試行した。学校長の許可を受け、休日のみ地域指導者だけの活動を認めることとした。

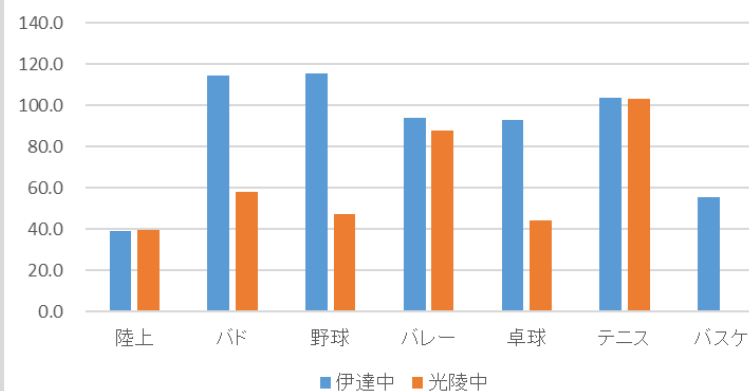
取組の成果

●兼業兼職（教員）の休日の稼働率減少

令和6年度、休日の部活動について、兼業兼職と地域指導者の複数体制で予算付けし活動を実施。今年度2学期までの活動の状況を予算内での兼業兼職の稼働率を比較すると、伊達中学校では7種目で平均87.3%の稼働率に対し、光陵中学校では、63.3%と20%以上の開きが生じていた。

休日の部活動で学校施設を活用する場合、「地域指導者のみでの活動を可」とすることは、兼業兼職（教員）の負担軽減につながることが証明できた。

休日の兼業兼職の稼働率



今後の課題と対応方針

●市内全中学校の学校施設を地域指導者のみでも活動可能に

今年度は光陵中学校のみ試行として取り組んだが、特に問題もなく実施できた。数値的に両校の兼業兼職の指導者の稼働率に20%以上の開き

が出ていることから、令和7年度以降は、休日の兼業兼職（教員）の負担軽減に向け、全ての学校で「休日における地域指導者のみの活動を可」とする方針。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組①（HPの有効活用）

取組事項

●HPの有効活用（広報活動、連絡事項、様式のダウンロード）

地域部活動移行開始時から、HPを開設し周知のため毎週更新をした。休日の活動や大会の様子を画像で知らせるとともに、地域指導者への連

絡事項や提出物の様式もダウンロードできるようにし、QRコードを用いたアンケート調査もできるようにしたことで、会員同士をつなぐ有効なツールとなっている。

HPの一部紹介

伊達スポーツクラブ“藍”

「中学校の部活動の地域移行・地域展開推進」に取り組んでいます！

令和5年度に市内中学校の部活動の休日の地域展開を完了させ、令和7年度より文化部（吹奏楽）の休日の地域展開、平日の運動部活動についても、随時地域展開できるものから地域展開させ、国の動向を見ながら、平日の地域展開完了目指します！

様式のダウンロード

<中学生会員> (3/13更新)

- 入会届 (Excel)
- 退会届 (Excel)

<指導者> (3/15更新)

- 指導者宣誓書① (Word)
- 指導者登録申請紙② (Excel)
- 指導者解除届 (Excel)
- 地域指導者の登録について<3/15更新> (PDF)

◆兼職兼業関係 (3/15更新)

- 依頼文書 (Word) 所属先宛用
- 営利企業等従事許可申請書③ (Excel) 市内学校用 市外学校用 公務員関係 会社員・自営
- 営利企業等従事許可書④ (Word) 市内学校・一般・自営

◆引継ぎ関係

- 月報 (4/10更新)

◆ケガをした場合 (事故通知書)

- 事故通知書 (Word)

【クラブ“藍”命名の由縁】

伊達市は、北海道唯一の「藍」の生産地となっています。「藍染文化」も定着しており、「藍」は身近なものとなっています。「藍」と「愛」を掛け合わせ、「みんなに愛される、みんなが愛するクラブ」を目指すことを目標にし、「伊達スポーツクラブ“藍”」と命名されました。

【「愛されるクラブ、愛するクラブ」を目指すため情報発信も積極的にいきます！】

◆QRコードを活用したアンケート調査へのご協力ありがとうございました！ (2/4更新)

生徒の皆さん、保護者の皆さん、兼業兼職の顧問の先生、地域指導者の方々、QRコードを活用したアンケート調査へのご協力ありがとうございました。

1/31（金）でアンケート調査は終了しました。次回以降もご協力の方よろしくお願いします！

スポーツ庁 部活動改革への骨子案
「地域移行」から「地域展開」に名称変更（推進期間をR8～13年度に延長）
<11/5更新 一部引用>

取組の成果

●HP活用の定着化

取組が2年目を迎えたこともあり、各種申請は様式をダウンロードしての提出が定着している。また、遠方で行われる大会の画像提供も昨年よりも多くなっている。

更新を楽しみに閲覧してくれる方が増え、HPを話題にした会話が多くなっている。

他市町村の教育委員会やスポーツクラブ、報道関係者の閲覧が予想以上に多く、問い合わせも、「HPを拝見して」から始まることが多い。

今後の課題と対応方針

●内容の充実と個人情報の管理の徹底

予想以上に活用が図られていることから、内容を更に充実させ、会員の情報収集のツールとして確立させたい。ただし、提供して頂いた写真も含め個人情報の管理は徹底したい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組②（業務軽減を図るオンラインの活用）

取組事項

●各中学校をオンラインでつないだ報償費算出のシステム

約70名の地域指導者が登録されており、報償費の積算の業務軽減を図るため、各中学校をオンラインでつなぎ、兼業兼職の指導者や地域指

導者の活動状況を、各校からスプレッドシート上のシステム入力を依頼している。地域指導者も自分の活動状況や報償費を確認できるとともに、事務局も紙ベースの月報と確認を行うため業務軽減につながっている。

取組の成果

●発生する追従業務の軽減化

紙ベースと月報と整合性を図り、週単位、月単位、学期単位で集計を行えることと、指導者自身も常に確認できることから、報償費積算の誤りはほとんどない。

また、追従する源泉徴収額の算出作業等について、データが一元化されていることから、システムの中で算出され、業務の軽減化が図られている。

今後の課題と対応方針

●月報と合わせたデジタル化へ

現在、学校からしか入力が出来ず、兼業兼職指導者の若干負担となっている。地域指導者全員が入力可能であり、更に紙ベースの月報のデジタル化を図ることによって、よりデータを一元化したシステムを再構築し、業務の軽減化を図りたい。

オンラインで繋いだスプレッドシートの一例

各校部活動担当者入力

		報償費入力システム(伊達中)												時間数	報償費			
		最長2hまで						最長3hまで										
		7/1		7/2		7/3		7/4		7/5		7/6				7/7		
氏名		開始h	終了h	指導h	開始h	終了h	指導h	開始h	終了h	指導h	開始h	終了h	指導h	開始h	終了h	指導h		
陸上	兼業			0		0		0		0			0		0	0.00	-	
	地域			0		0		0		0			0		0	0.00	-	
	地域			0		0		0		0			0		0	0.00	-	
バド	兼業			0		0		0		0			0		0	0.00	-	
	地域	15:30	17:00	1.50		0	15:30	17:30	2.00	15:30	17:30	2.00	8:00	16:00	3.50	0	11.00	17,600
	地域			0		0	15:30	17:30	2.00		0	15:30	17:30	2.00		0	4.00	6,400
野球	兼業			0		0		0		0			0		0	0.00	-	
	兼業			0		0		0		0			0		0	0.00	-	
	地域			0		0		0		0			0		0	0.00	-	
バスケットボール	兼業			0		0	15:30	17:30	2.00			0		0		0	2.00	3,200
	兼業			0		0		0		0		8:00	15:30	3.50		0	3.50	5,600
	地域	15:30	17:30	2.00		0		0	15:30	17:30	2.00	15:30	17:30	2.00		0	6.00	9,600
テニス	兼業			0		0		0		0		8:00	17:00	3.50		0	3.50	5,600
	地域			0		0	16:00	17:30	1.50					0		0	1.50	2,400
	兼業			0		0		0		0		8:00	13:00	3.50	13:00	16:00	3.00	6.50
テニス	地域			0		0		0		0			0			0	0.00	-
	地域			0		0		0		0			0			0	0.00	-
	地域			0		0		0		0			0			0	0.00	-
バスケットボール	兼業			0		0		0		0			0			0	0.00	-
	兼業			0		0		0		0			0			0	0.00	-
	地域			0		0		0		0			0			0	0.00	-
バスケットボール	兼業			0		0		0		0			0			0	0.00	-
	兼業			0		0		0		0			0			0	0.00	-
	外部			0		0		0		0			9:00	16:00	3.50		3.50	5,600
バスケットボール	兼業			0		0		0		0			0			0	0.00	-
	兼業			0		0		0		0			0			0	0.00	-
	外部			0		0		0		0			0			0	0.00	-

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

◆確実に成果が上がった競技力向上

SC設立1年目、2年目と全国大会に出場することができた。1年目は陸上部のみであったが、2年目は陸上と剣道部が出場選手数も増え、成果を上げることができた。

また、全道大会においても出場人数、種目数が増えていることは、競技力向上という面では一定の成果があった。

◆地域指導者の積極的参加

大会等の成績向上と地域指導者の待遇改善についてはリンクしており、地域指導者の積極的な参加が多くなった。複数体制の指導を多くの部活動で取られるようになったことにより、大会成績および競技力向上が図られた。

◆市、教育委員会の予算措置

設立、運営と他クラブと比較することなく、SCの活動に取り組み、予算面を充実させてきた。

◆様々な工夫

合同練習の積極的導入、スクールバスの活用、「ゆる部活」、「3年生応援プロジェクト」等活動の幅を広げた。

●成果の評価

◆比較的スムーズに進んだ「休日の地域移行・展開」

SC設立と同時に「休日の地域移行・展開」に取り組んだが、1年間の準備期間と各競技団体の協力があり、合同練習の取組や複数体制の指導の構築など、新たな取組も生まれ、競技力が向上し大きな成果があった。

◆以外と課題が多く難しい「平日の地域移行・展開」

剣道および柔道は、平日も完全地域移行となり、学校によってはテニスや野球部等も平日の地域移行ができた種目もあるが、当初目標としていた令和8年の平日の地域移行は、当面できる種目から移行・展開することとした。

地域指導者の確保、学校の規則改正、長く続いてきた学校部活動と地域部活動との概念の違い理解に時間を要した。

●今後に向けて

◆「学力向上や競技人口を減らさない」バランス重視の取組を常に意識する

本市の取組は、現在の生徒の生活リズム、時間を壊すことがない「平日の地域移行・展開」を目指している。指導者の時間を優先し、安易に練習時間を夜に設定することにより、生徒の生活リズムが崩れや、塾を含めた習い事に行けない生徒が出ることを懸念している。また、習い事に行けないことにより部活に入部しない生徒が増え、競技人口が減少していくことを危惧している。

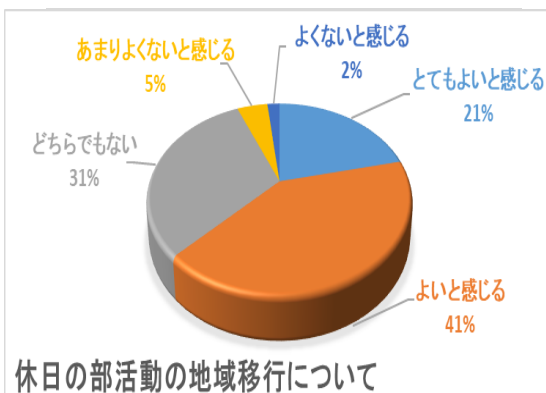
生活リズムの崩壊は、学力低下にもつながることもあり、平日の地域移行・展開にあまりにも傾斜した取組にならないよう、「学力向上と競技人口を減らさない取組」についてバランスを重視しながら対応していく必要があると考えている。

2.実証内容と成果②

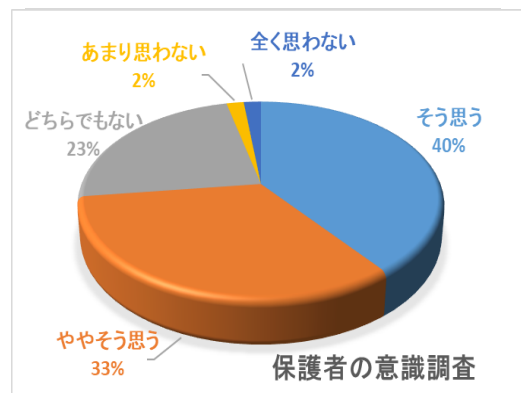
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

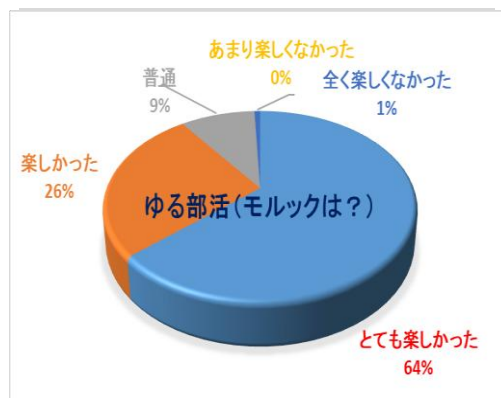
Q.休日の部活動の地域移行について
どう思いますか？（保護者112名）



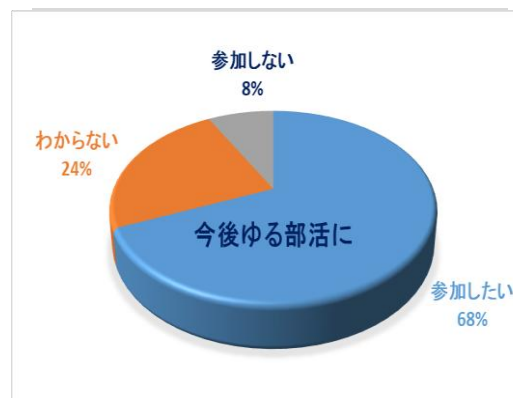
Q.今後もSCの活動に参加させたい
ですか？（保護者112名）



Q.今日の「ゆる部活（モルック）」はど
うでしたか？（140名回答）



Q.次回も「ゆる部活」に参加してみ
たいですか？（140名回答）



●参加者の声

中学3年生（バレーM・G）

火曜日の合同練習では、スパイクメインの練習で、自分なりにスパイク力をつけることが出来たと思います。3年生応援プロジェクトでは、引退後トレーナーの指導で体幹を鍛えることができ、この2年間で学んだことを高校でも生かしたいと思います。

中学2年生（「ゆる部活」に参加して）

部員のみんなとチームで戦い合ってた楽しかった。得点を奪うのに頭も使うから面白い。ちょうど良い運動量で、運動の苦手な私でも楽しめた。体育の授業でもやってほしいと思った。

指導者（バドI・K）

SCによる平日を含めた活動の支援により、生徒にとって指導が一貫している。また、運営の補助等により、指導者への金銭面の支援だけでなく、練習場所や活動時間の確保がしやすくなった。

指導者（卓球Y・Y）

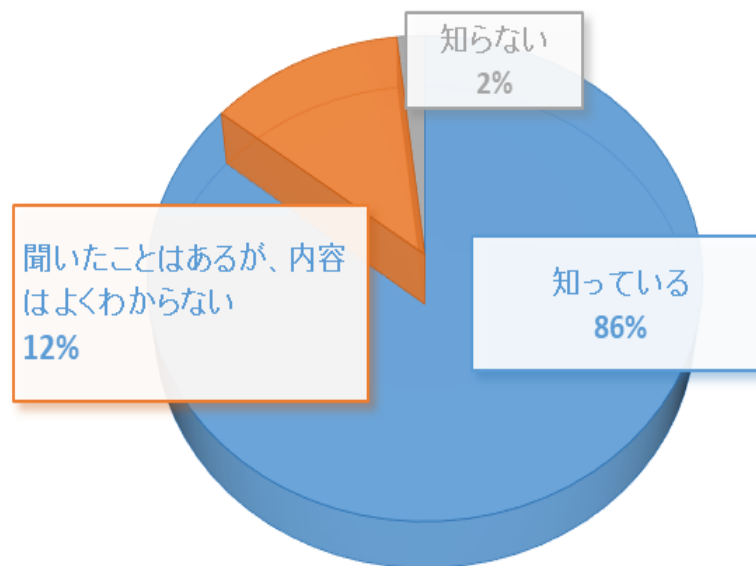
SCの活動を通じて各学校ではなく伊達市として、卓球を通じた活動が活発になり、創設から2年経ち変化をこの頃感じられるようになってきました。競技をやりたい生徒達と地域の方々との繋がりを長く楽しく出来る運営に今後とも協力して行きたいと思っています。

スポーツ庁

回答を得た保護者の数値からも、86%を超える保護者から「知っている」という回答を得ることができ、保護者のSCの認知度は、ポスターやHPIによる広報活動等により認知度は向上している。



出典:伊達スポーツクラブ藍自作



出典:令和5年度 地域スポーツクラブ活動体制整備事業アンケートより

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	4 校	実施した地域クラブ総数	16 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		16 クラブ（16 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	66 人	全体の運営スタッフ数	2 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼任）	会費	大会参加方法
伊達中 光陵中 陸上部	単独 合同	陸上	単独：週4回 単独：平日 合同：週1回 合同：休日	平日 放課後 休日 午前中	中1：28人 中2：10人 中3：13人	4月 ～ 3月	平日 各校グラウンド 休日 室蘭陸上競技場	単独1～2人 合同3～4人	0人	0円 会費徴収なし	全ての大会 学校部活動
伊達中 光陵中 バレー部	単独 合同	バレー ボール	単独：週4回 合同：週1回 合同：平日	平日 放課後 休日 午前中	中1：13人 中2：8人 中3：9人	4月 ～ 3月	単独 各校体育館 合同 伊達総合体育館	単独1～2人 合同3～4人	2人 （内、 兼任2人）	0円 会費徴収なし	全ての大会 学校部活動
伊達中 光陵中 卓球部	単独 合同	卓球	単独：週4回 単独：平日 合同：週1回 合同：休日	平日 放課後 休日 午後	中1：11人 中2：7人 中3：28人	4月 ～ 3月	単独 各校体育館 合同 伊達総合体育館	単独1～2人 合同5～8人	2人 （内、 兼任2人）	0円 会費徴収なし	全ての大会 学校部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 「ゆる部活」の実施：YOGA、エアロダンス、ニュースポーツを民間や競技団体の専門講師を招き、各中学校で全生徒対象に学期に1回開催。
- 冬季間の陸上部のトレーニング室を活用した練習
- 試行として「3年応援プロジェクト」を実施（部活引退後の3年生対応）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組（今後の課題：競技団体より多数要望あり）

取組事項

●要望は多々あるが…

近隣市町の卓球・バレー・陸上部の部活動顧問から、合同練習の要望を頂いている。

●地元高校との交流のみ

バレーボールや卓球、ソフトテニス、バドミントン、バスケットボール等では、地元高校と練習試合等により交流を図っている。

課題1：各自治体間の連携

●指導者からは要望が…

SC設立時から、合同（広域）練習として「常時参加させてほしい」という要望が多数寄せられている。

しかし、実際には指導者間での話であり、教育委員会や校長会での正式な要請はないのが現状である。

課題2：費用負担の問題

●会費徴収をしていない

市外生徒を受け入れることができない理由として、指導者の報償費や施設の使用料、使用用具の費用など、近隣市町との費用負担面の検討が必要。

課題3：移動による開始時間の遅れ

●開始時間の遅れ

近隣市町との合同（広域）練習を行うにあたり、バス等での移動時間がかかり開始時間が遅れてしまう。

今後の課題と対応方針

●受け入れは可能

部活に加入している生徒数と指導体制を考慮すると、取組が広域となっても受け入れは可能である。

費用負担面と移動時間が解消できれば、伊達市だけではなく、西胆振全体の「働き方改革」「競技力向上」につながる。

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【完全地域移行・展開している剣道部と柔道部】



【毎週土曜日実施の陸上合同練習】



【地域指導者によるバレーの合同練習】



【地域指導者が監督を務めるテニス部】



【全道大会で勝利した伊達中野球部】